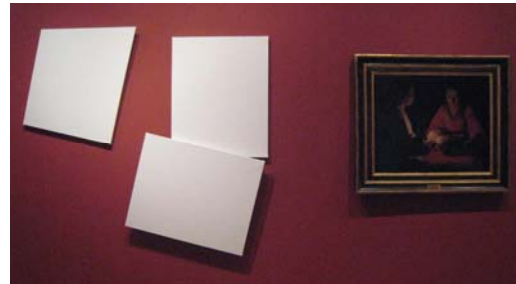


川村特定がスタートしてはや中間地点を過ぎました。これが出版されるころには、各計画班、公募班の皆様には、継続申請が終わり、研究に再び集中できるようになっているのではないかと思います。

さて、物理とは関係ない話題で恐縮ですが、先日、数日間だけ滞在したフランス・レンヌのことを書かせてください。私は海外に行くとき、時間を見つけてその街の美術館に行くことにしています。四回目の滞在ですが、レンヌ美術館には最もお気に入りの「聖誕」(ラ・トゥール画:写真右)があるので毎回行っています。ちなみに(十年程前にどこかの雑誌で読んだ話なのであやふやですが)、フランス人が最も愛する画家は、自由の女神で有名なドラクロアか、このラ・トゥールなのだそうです。しかし、今回は美術館全体の様子が全然違いました。絵の並び方と時代や画家との相関がありません。どこの美術館でも画家名、作品名、年代などを書いたパネルはその絵の横か下についていますが、今回は絵とは少し離れたところいくつか(2-4個)まとめてあります。おまけに額ごとさかさまになっているものもある始末。不思議に思い監視員に聞くと、特別企画として、「トポロジー」、「まなざし」などのテーマに沿って、館内の絵を全て配置し直したとのこと。小さい美術館であるからこそできた芸当でしょう。さかさまの絵は「反射」というテーマでした。別の視点から半強制的に見直すと感じる世界がこんなにも違うのかと感動しました。川村特定はまさにいろいろな現象をフラストレーションという視点から捉えなおそうとしているわけで、すでにカゴメ、ハニカムなどで大きな進展がみられました。後半でどのような新たな発見が待っているのか楽しみにしています(私も努力します)。

年明けには、京大基研で成果報告会を開催します。底冷えとともにお待ちしております。懇親会は京大時計台の中にある、この画家の名がついたフランス料理店です。



陰山 洋

特定領域研究「フラストレーションが創る新しい物性」

ニュースレター Vol.7

2009年11月発行

発行者 川村 光(大阪大学 大学院理学研究科)

編集担当 有馬孝尚(東北大学 多元物質科学研究所)

陰山 洋(京都大学 大学院理学研究科)

編集協力 菅谷 久仁子(大阪大学 大学院理学研究科)